

光の装飾



アール・ヌーヴォーと
アール・デコのガラス工芸



ルネ・ラリック 「泉の精ガラテ」1924年デザイン 個人蔵



エミール・ガレ 「カモメ文ランプ」1910年頃 個人蔵

2018
9.8 | 土 | ▶ 10.28 | 日 |

会場◎岡崎市日本多忠次邸

開館時間◎午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日◎月曜日（ただし9月17日、24日、10月8日は開館）
及び9月18日（火）、25日（火）、10月9日（火）

入館料◎一般 300円／小中学生 150円
※岡崎市内在住・在学の小中学生、各種障がい者手帳をお持ちの方とその介助者（1名）は無料

主催◎岡崎市 企画協力◎ギャラリーオルフェ

写真／内藤貞保 (bon photo service)

岡崎市日本多忠次邸

OKAZAKI CITY FORMER RESIDENCE OF HONDA TADATSUGU
〒444-0011 岡崎市欠町字足延40番地1（東公園内） Tel.0564-23-5015

光の装飾



アール・ヌーヴォーと アール・デコのガラス工芸

「新しい芸術」を意味し、曲線、植物、裸婦像など有機的な形が印象的なアール・ヌーヴォー様式と1925年パリのデザイン博覧会を語源とし、幾何学的な模様が特徴のひとつであるアール・デコ様式。19世紀末から20世紀前半にかけて、第一次世界大戦をはさんで生まれた2つの様式は、当時各地で頻繁に行われた博覧会の影響もあって世界に広まり、建造物や工芸品、服飾、広告とあらゆる分野で流行を作りました。

今回の展示では、アール・ヌーヴォーからアール・デコまで、エミール・ガレ(1846-1904)やルネ・ラリック(1860-1945)などそれぞれの様式を牽引した工芸家たちによるガラス作品

を中心に紹介します。日本美術の影響や、それらの表現を可能にするための加工技術への挑戦、各博覧会の果たした役割など作品の生まれた時代背景と共に、昭和の洋館を彩る光の装飾の数々をお楽しみください。

関連
イベント

ギャラリーツアー

ギャラリーオルフェスタッフが展示作品をわかりやすく解説します。

日時/2018年 9月8日(土)11時～、14時～
10月7日(日)11時～、14時～

各回とも ●参加無料(要入館料) ●事前申込不要
※混雑した場合は参加を制限させていただく場合があります。



エミール・ガレ
「ダリア文花瓶」1890年頃 個人蔵



エミール・ガレ
「バグ/ネコ置物」1880年頃 個人蔵



エミール・ガレ
「藤文花瓶」1900年頃 個人蔵



ドーム兄弟
「冬景色文ランプ」1910年頃 個人蔵



ルネ・ラリック
「置時計-昼と夜」1926年デザイン ギャラリーオルフェ蔵



ルネ・ラリック
「スカラベ花瓶」1923年デザイン 個人蔵



岡崎市旧本多忠次邸

OKAZAKI CITY FORMER RESIDENCE OF HONDA TADATSUGU

〒444-0011 岡崎市欠町字足延40番地1(東公園内) Tel.0564-23-5015

徳川四天王のひとり本多忠勝(1548-1610)を始祖とする旧岡崎藩主本多家の子孫、本多忠次(1896-1999)が昭和7年(1932)、東京世田谷に自邸として建てた木造2階建の洋館です。平成24年(2012)に岡崎市に移築復原され、平成26年(2014)10月には国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。

【開館時間】 午前9時から午後5時
(入館は午後4時30分まで)

【休館日】 月曜日(月曜日が休日の場合は翌日以降の最初の休日でない日)、1月1日～3日、12月29日～31日、展示替期間

【交通のご案内】

- ◎お車の場合:東名高速道路「岡崎インター」から約5分。
- ◎公共交通機関:名鉄東岡崎駅の②番バスのりばから東公園口方面行きに乗り、「東公園口」下車、徒歩3分。

